



一人ひとりが一人の人間として大切にされる社会を目指します

男女共同参画庁内推進委員会（プロジェクト）

男女共同参画庁内推進委員会は、職員十八名で構成し、大崎市の男女共同参画社会の形成を推進するための調査・研究や啓発活動を行っています。

四月からこれまで五回の庁内推進委員会、六回の作業部会を開催し、令和元年度に事業推進課で実施し、自己評価した取組事業について、調査・検討を行いました。

また、男女共同参画プロジェクトについては、庁内推進委員会にプロジェクト・チームを設置し、二つのプロジェクトについて企画・立案を行い、実践項目を設定し男女共同参画の推進に取り組んでいます。

命（いのち）を守るプロジェクトでは、市内中学校で開催するデートDV学習会への講師派遣や、市内事業者の管理職等を対象にした「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の研修会の開催、啓発物を作成し、新成人への配付や、ドラッグストア等へのポスターの配付など啓発事業を展開しています。

また、宝をつなぐプロジェクトでは、庁内推進委員会でワーク・ライフ・バランス推進のための意見交換会を実施。次年度は若手・中堅職員を対象にした意見交換会の開催を計画しています。



語ろう!!これからの男女共同参画

～安心して子育てできる環境に感謝～

大沼紫乃さん

私は、二児の母で岩出山の子育てサークル『おもしょ～な』で活動をしています。

子どもって成長が早い！寝返りやハイハイが出来る様になったあの日。つたないしゃべり方も上手に話せるようになれば嬉しいはずなのに、どこか物寂しさを感じる。今この一瞬一瞬がどんなに貴重で尊いか、ママになって感じる幸せを噛みしめています。

そして、もうひとつ幸せな気づきがありました。ある日、子育てサークルは「社会参画」「地域活動」の場なのだと、先輩ママに教わり、目の前が明るくなりました。それまでは、パパは仕事で専業主婦は子育てに明け暮れて、急に社会から遠ざかった気がしていたからです。

でも、それは同じ環境にいるママたちとサークルで時間を共にすることでそこに社会（コミュニティ）ができる、ということに気づいていなかっただけ。まさに「自由に社会参画していた！」と気づくことができたのです。

ママになったからできなくなったことを数えるより、ママになったから作れた社会（コミュニティ）の中で、今はとても充実した時間を過ごしています。まだまだ子育ては続きます。子どもとの今この一瞬を楽しむ！家族みんなの笑顔が沢山見られるように今日も育児に奮闘しています。





地域で輝く女性たちを紹介します

福原千恵子さん

大崎市古川農産加工
クラブ連絡協議会会長

～ これからも仲間とともに ～

『大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会』は、自家消費農産物を利用しての味噌や梅干しづくりを伝承する市民開放講座の講師、仙台市勾当台公園市民広場で開催される古川まごころ市で自家生産した農産物や漬物等の販売などの活動をしています。このほど長きに渡る功績が高く評価され、宮城県農業・農村活性化女性グループ等表彰「地域社会参画部門」で最優秀賞を受賞されました。

会長の福原千恵子さんは、第四代会長で昭和57年設立当時からのメンバーのおひとりです。平成5年から開催している「市民開放講座」は、毎回好評で定員オーバーでお断りをしなければいけないことも。「参加される皆さんには、本当に楽しみにお出でいただいています。「やっと来れました。」「ずっと来たかった。」と言っただけは本当にありがたい。皆さんのやる気が伝わってきて、次も頑張ろう!と思える。」と福原さん。



また、今年で39年目を迎える協議会会員は、現在47名、なかなか新規会員が増えないことが気がかりだとおっしゃいます。

会の存続を強く願いながら、お客さまとの出会いや仲間との交流を大切に、クラブで得た技術を誇りに、これからも楽しく活動を続けていきたい。そして、たくさんの方にふるさとの味を継承し、次世代に繋いでいきたい。と話してくださいました。

「妻が突然…」 本当に **突然** でしょうか !?!

大崎市男女共同参画相談室が市民病院健康管理センターの3階に移転してもうすぐ一年になります。私は毎月、第2第4水曜日にカウンセラーとして相談室で仕事をしています。

ここでは、相談員が電話相談も受けています。夫婦関係やDV、家族の問題を抱えた女性からの相談が多いのですが、件数は少ないものの男性からの相談も来るようになりました。

その方たちは、「妻が **突然** 実家に帰ってしまった。」「妻が **突然** 離婚したいと言ってきた。」と言います。話を聞いていると“本当に**突然**だろうか?” と思います。

妻たちは自分のしんどさを分かってほしくて色々と言っていたのではないか…。「また、その話か」「みんなやってるだろ」と取り合わなかった、聞こうとしなかったから聞こえなかった、だから、妻の気持ちに気づけなかったのではないかと。

今でも男性は働いているだけでよしとされているところがあります。『仕事と家事・育児の両立』の大変さを女性の方が引き受けているのが現実です。分かち合うには、男性たちは、まず、「オレが分かるように言え」という態度をやめ、自分の方が「分かりたい」という気持ちになって聞いてほしいと思います。

大崎市男女共同参画相談カウンセラー 田口 京子



おおさき男女共同参画推進ニュース『With』では、みなさんのご意見・感想・情報をお待ちしております。
大崎市市民協働推進部まちづくり推進課 男女共同参画推進室
電話 0229-23-2103 Fax : 0229-23-2427 E-mail : machi@city.osaki.miyagi.jp